

令和4年度 叡明高等学校 学校自己評価シート

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 目 標	建学の精神である「みんなから愛され、信頼される人」「社会に役立つ人」「勤労を尊び前進する人」を育てることを目標とする。「叡智・高志・協調」を教育の理念とし、①自主自立の精神を養い、自ら学び自ら考える力を育む。②確かな学力と規範意識に基づく豊かな社会性を養い、たくましく生き抜く力を育む。③思いやりの心や個性を伸ばし、一人ひとりの夢や希望を育む。以上の3点を具体的な教育方針とし教育活動を行う。
---------	--

本年度の目標	叡明高等学校としての7年間を検証し、継続または発展させるべきことと、改善すべき点を明確にし、それらを踏まえて学習活動の指導、規範意識や道徳心の涵養、基本的生活習慣の定着を図る。
--------	--

	評価項目	現 状	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	学校関係者評価	
							実施日	令和5年6月13日
							学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	教 務 業務の 効率化 教育環境 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署や学年との連携をより綿密に取る必要がある。 ・出席簿・調査書等の公簿の記載について、不備がないように徹底しなければならない。 ・今年度から年次進行実施の観点別評価、新様式指導要録、新教育課程の授業について、安定的かつ、確実に業務が行えるようにしなければならない。 ・新型コロナウイルスに関する欠席の扱いや定期試験の点数処理等について、配慮とともに公平性の担保も必要となる。 ・新指導要領に対応するために各教科の準備を充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部長間での意見交換の場を意識的に作り、意思の疎通を図り、協力関係を強化していく。 ・教務部会を充実させ、教員にも問題意識を持たせ、活発に意見交換をし検討していく。 ・教科会議の充実を図る。特に、双方向型授業、生徒が主体的に学ぶための授業づくりを推進する体制を整える。 ・個々の教員業務において、不備・過誤が起こらないように、教務部が主導し、適切な時期に適切な指示を出す。 ・現在行われている業務を精査し、効果と効率を考え、業務全般を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部が主導して教務的な業務が行えているか（余裕を持った業務日程の設定。適切な業務指示など）。 ・部署を越えての学校業務における協力関係の確立。 ・教科指導部及び教科主任との連携（教科の状況把握と適切な指示）。 ・学年主任会の開催と指示及び情報共有。 ・教務部会の開催。より建設的で効率的な観点での意見交換。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの特殊な対応と見込み点での成績算出、観点別評価など、複数の成績算出方法が存在したが、留意点を注目させたり、時期を見て指示を出したりしていく中で、成績処理をおこなうことができた。 ・新年度からは、教務的な基本事項を教科主任を通して指示することで運営することができた。 ・観点別評価や見込み点算出などについて、マニュアルやモデルを作成し示すことで、運用することができた。 ・出席停止の扱いをより厳正化し、次年度の準備ができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から始まった観点別評価等、細かく状況を確認しながら都度指示を出してきたが、その指示が個々の書類となっているため、次年度はそれらを内容も精査して業務マニュアルにまとめる必要がある。 ・新型コロナウイルスが5類に移行するため、本校での取り組み及び各種書類を変更し、次年度の早い時期に提示していく。 ・より効率的かつ効果的に業務が行われることを目指し、教務部会で現状の課題を把握し、業務の再編成も含め対応を検討していく。また、教務部内での役割分担も検討する。 ・新教育課程に則った授業のあり方については、教科指導部と連携して検討していく。 	<p>【教務】新型コロナウイルス関連今後の行事の状況は？ →コロナ禍前に戻していく。 出欠確認はありますか？ →ものによりあり。 入学式・卒業式の制限は？ →現時点は特に無し。 マスクの状況は？熱中症は？ →校内では7～8割着用。 症例は2件ほど。 定期試験欠席については？ →特別扱いは特に無し。</p>
2	学習指導 教科指導 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学を希望する者が大半である一方、一般入試の受験者数は少ない。 ・難関大学合格者が少ない。 ・土曜講習での代ゼミサテラインや、スタディサプリ、スタディサプリEnglishを通して、タブレットを活用した学習が定着しつつある。 ・各種検定試験の受験者や、外部模擬試験の受験者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と大学進学対策講座講習の体系化を図り、難関大学への合格者を増やす。 ・オンライン講座を活用した、学習機会の確保。 ・特選においては1年次より長期休暇における対面式の講習を行う。 ・AI教材atama+を活用した独自の学習システム+studyを開講し、学力と学習習慣の定着を図る。 ・3年目までの新任教員を対象に、駿台の教員向け講座を研修として活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の合格実績。 ・模試の結果の推移。 ・難関大学の入試に対応した授業や講習の実施。 ・検定合格者数と合格率。 ・教員向けガイダンスへの参加数。 ・オンライン講座の視聴数。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学合格実績は厳しい状況ではあるが、一般入試で難関大学へ一定数合格させることができた。特にGMARCHの合格実人数は昨年同数出すことができた。 ・一方で述べ合格数は減少したため、出願校数の増加は課題である。 ・リスニングコンテストを実施し、スタディサプリEnglishに対する動機づけとした。 ・長期休暇講習においても授業を実施し、進捗を確保したうえで、入試問題演習の時間を取れたことは取り組みとしてよかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安易に推薦入試に流れるのではなく、目的意識を持たせうえて、入試方法の選択をさせる指導を行わなければならない。 ・一般選抜において重要性が高まっている英検を取得させるため、全員受験を実施する。また、そのための対策講座も開講する。 ・オンライン講座を活用し、各講習の回数を増やすだけでなく、アウトプットの機会を設けることでより効果の高いものに変えていきたい。 ・長期休暇講習を拡充し、特選以外でも対面講習を実施したい。 	<p>【学習】休校時のオンライン対応 荒天等の急な休校時のオンライン対応はタブレットを活用してほしい。事前準備しておいたものの配信など。 →可能な限り対応したい。</p> <p>【進路】大学連携協定 連携のメリットは？ →指定校推薦枠増加。体験授業。 単位先取り制度の発展を期す。 部活動の連携は？ →目指したい。</p>
3	進路指導 進路指導 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学率（昨年度80.3%）を伸ばす必要がある。 ・難関大学合格者数が少ない。 ・難関大学を目指せる学力を持った生徒が少ない。 ・上位校の指定校推薦の数が少ない。 ・高大連携の取り組みが少ない。 ・コロナ感染の状況が落ち着いてきてはいるものの、まだ生徒が入試情報を得る機会は多くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学の意義をデータに基づいて説明する。 ・一般選抜受験者を対象に出願指導検討会を実施して難関大学合格の可能性を伝える。 ・指定校推薦の依頼文を送付するだけでなく、大学訪問を積極的に行うことで本校の取り組みや進学実績を説明していく。 ・新たに連携協定を結ぶ大学を探すとともに、すでに連携を結んでいる東洋大学についても、大学側と連絡を取り合いながら連携事業を増やす計画を立てていく。 ・「進路サイト」を作成して、最新の入試情報や学校情報を素早く生徒へ発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学率の向上。 ・偏差値60以上の生徒の数。 ・難関大学合格者数。 ・上位校（日東駒専以上）の指定校推薦の数の数。 ・連携事業の実施状況。 ・「進路サイト」の完成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学率は80.3%から87.5%に向上した。 ・偏差値60以上（3年11月）の生徒の数が増加した。 ・難関大学（国公立・早慶上理・GMARCH）の合格者数は37名であった。 ・上位校（日東駒専以上）の指定校は46名から63名へと増加した。 ・新たに文教大学と連携協定を締結した。東洋大学とも交流の機会が増え、協定を締結した2学部の指定校枠は全て利用できた。 ・「進路サイト」が完成し、最新の入試情報の他に、受験レポートや指定校選考試験の過去問題などを閲覧できるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大学の合格者数以外は、計画通り進めることができ数値目標も達成した。ただ、難関大学の合格者数は最も重視しなければならないものであり、最も達成困難な課題である。これを達成するには、合格する可能性のある生徒を育成するとともに、その生徒たちの難関大学への出願数増加が必要である。そのために今年度は生徒だけでなく、保護者にも出願数の重要性を丁寧に説明していく。 ・同時に特別入試で受験する生徒の進学先確保も進めていく。上位校の指定校枠および連携協定校における特別枠の確保に努めていきたい。 	<p>【生活】 ①挨拶 挨拶が今一つとの話であったが、1階歩いていて、よく挨拶できている。 →まだまだ。</p> <p>②校則 ツープロックはOKか？ →許可している。 ブラック校則が話題だが、今後は「理由」説明が必要。理不尽さが減れば自主性が上昇するのではないかと。 →「だめなものだめ」は理不尽だ。 生徒会の意見は？ →関与は大切だが、段階を経たい。</p> <p>③一斉メール 事件等についての配信は助かる。 →今後も精査して配信したい。</p> <p>④花壇 花壇の一言プレートがいい。 →ありがたい。</p>
4	生活指導 生徒指導 の充実	<p>【登下校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶する生徒は増えているが、自発的な挨拶が課題であり、また声が小さい。 ・自転車通学者の交通事故が増加している。 ・制服着崩しをする生徒はほとんどいない状態であり、全体的には落ち着いている。 <p>【指導措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の件数も昨年度より減少した。 	<p>【登下校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、教職員が率先して取り組み、生徒とのコミュニケーションを図る。 ・学年集会等での自転車マナー講習や登下校指導の強化等を行う。 ・登下校時、校門での生徒指導部による服装等の整容指導を行う。 <p>【指導措置及び規律】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒心得など共通理解事項を共有し、全教員による声かけ指導に取り組む（日々指導）。 ・不正行為をさせない環境作りを行う。 ・SNSの諸問題については、具体例、本校での対処法や指導措置を生徒に伝え、理解させる。また、外部の講師を招いての講義を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員間の挨拶の実践。 ・登下校のマナーにかかわる苦情の減少と交通事故件数の減少。 ・高校生に相応しい頭髪や振舞い（制服の着こなし）、基本的生活習慣（欠席・遅刻数などの統計）。 ・問題行動（SNS含む）の有無。 ・地域からの評判（ボランティア活動や部活動での成績など）。 	<p>【登下校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、積極的に挨拶を心がけてくれる生徒が増えている。 ・登下校での自転車事故の件数は増加している。来年度も継続して指導を行っていく。 <p>【指導措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に学校生活は落ち着いている。ただし問題行動も数件あった。 <p>【校則見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に向けて、社会の情勢を鑑みて、校則見直しを進めている。具体的には、 ①頭髪指導のあり方 ②制服（オプションの導入） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学校内のルール、生徒会及び委員会活動の活性化を図る等、生徒たちに積極的に関わらせることで、生徒自身の力をつけさせる（自己判断・自己指導）。 ・生徒指導は共通理解に基づき、教職員全体で行う（生徒・保護者からの信頼と公平性確保のため） ・生徒指導の基盤はホームルームにあり、生徒指導の基本は担任であることを意識し積極的に行う。 ・ボランティア活動等を通じて、優しさと思いやりの心を育成し、人権尊重の精神を養うことを目指す（本校から駅までのゴミ拾い等）。 ・保護者との信頼及び協力関係の形成を図る。 	<p>【広報】ホームページ ホームページはとても大切なもので、まず先に見る。更新しているかどうか。一新して良かった。入学者増につながったのでは？ →さらにブラッシュアップさせたい。</p> <p>【ICT】 ①保護者会 活用している。ペーパーレスの観点からも、さらに活用させてもらいたい。ホームページに保護者会の欄があってもよいか。 ②タブレット 保証は？ →3年間有効。 ③今後に期待する。</p>
5	広 報 広報活動 の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・定員520名を上回る生徒の入学。 ・558名【単願358名、併願200名】 ・男女比47：53 ・普通科定員充足率107.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状のホームページを最大限に活用した募集活動を行う（情報発信）。学校説明会は映像配信で対応。 ・外部の相談会より、学内の相談会に比重を置いた。最大1250組以上の相談を1日に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・580名の入学者確保。 ・個別相談数の確保(5400件)。 ・映像配信を利用した説明動画。 ・単願希望者の増加。 ・ホームページの迅速な更新。 	<ul style="list-style-type: none"> ・充足率140%(定員520名に対し、入学者数727名)。 ・オープンスクール参加者1,800名、個別相談会参加者3,822件 ・志願者数2,629名（昨年比113%） ・単願希望者448名（昨年比125%） ・ホームページを一新。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・内側に目を向ける(在校生に対し)ことで、ロコミ等の広報活動にも比重を置く。引き続き姉妹の入学免除の情報は発信する。 ・ホームページの改善を行うことで入試情報はもちろん、生徒活動状況や学習への取り組み状況の迅速な情報発信を行う。 ・各説明会(中学校での進学説明会など)にて生徒の映像を利用。 ・中学校(塾)訪問の実施(教頭・正副部長)。 	
6	ICT 環境整備 効率的運用	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年生徒はiPad、1,2学年生徒はChromebookを使用。主なツールとして、Google Workspaceのサービスを利用。 ・教務システムの情報を管理。 ・学校ホームページを管理、更新。 ・視聴覚機器を管理運用し、各種映像を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の教員と情報交換を密にし、現場での生徒端末の運用状況を注視する。 ・教務部と協力し、教員向けマニュアルの更新を通して、効率的な成績管理や文書発行を行う。 ・入試広報部と協力し、ホームページや映像作成を通じて、効果的な情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒端末についてのスムーズなトラブル対応ができたか。 ・スムーズな成績管理や文書発行ができたか。 ・ホームページの内容を精査し、更新頻度を上げることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端末の修理対応が多く発生したが、現状の保証会社による保証対応は数ヶ月を要することもあり、学習環境の維持は厳しい状況であった。 ・新課程における観点別評価導入および指導要録新書式対応を行なった。生徒の情報を横断的に確認することができる新帳票「個人資料」を計画した。 ・学校ホームページ、更新作業の円滑化やレイアウト・内容の構築を高いレベルで運用できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した環境の維持に適した端末の採用および保証体制を検討する。 ・クラブ活動実績や学年行事について速報性の確保が最大の課題であり、広報部や各クラブ顧問、各学年との間に情報集約のためのしくみ作りを行っていく。 ・視聴覚機器の準備や扱いについて、より多くの生徒・教職員が対処できるよう裾野を拡大していく。 	